
『ドール博士』

rissi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『ドール博士』

【Nコード】

N81290

【作者名】

r i s s i

【あらすじ】

15分で作ったショートショートです。
ドール博士は出てきません。
少女と人形の不思議な物語です。

（前書き）

幸せがあるのだけど、この館には。
それは不幸ということでしょう。

この作品にドール博士は出てきません。
残酷な描写も薄っぺらです。怖いことは何一つありません。

博士は人形とばかり遊んでいた。

少女、ジェシカはその古臭い屋敷に住むたった一人の人だったのに。博士は気にしない。気に「も」しないといった方が正確。家事全般に、身の回りの世話。ジェシカは良く働いた。金の無心は無いものの、暮らしぶりは奴隷以下。

しかし、人形は、博士は取り合う手を決して離さなかった。そう、人形ばかりで、ジェシカのことを見向きもしなかった。

そのうち、博士はドール博士と呼ばれるようになった。

「今日も博士は人形遊びに御執心」

クスクス笑い声の階段を横切り、ジェシカが辿り着いたのはアーケ電灯の眩しい一つの部屋。ここに至るまで、幾度もの悪口を吐かれ叩かれたか。全ては人形のせい。博士の愛するものだから、手出しは出来ないけど。

「……大した力も無いくせに、威張ってばかり」

ジェシカは唇を突き出して、とさかに来たことを示すように、持っていたわら箒で棚にいた蜘蛛を叩き落とす。踏みつける。手足バラバラ。いい気味。ジェシカの行動に震えたのは、その奇行を覗いていた人形だった。その二つは互いに抱き合って、震えを堪える。

「人形のくせに」

この一言だった。ジェシカのこの一言で、人形達は恐れおののき博士の元へと帰る。

「どうせ壊れても、博士に治してもらえるんでしょ」

ああ、いいご身分。ジェシカの笑い声は館中に響き渡り、人形達は博士の許へ駆けつけたという。必死になって、ドール博士の許へ。

愛している。愛している。愛している。愛している、愛している、

愛している。

この館には愛が満ちていた。愛しかなかった。

古ぼけたガラス戸に、苔の生したアンティーク棚。蜘蛛の巣だらけのハードカバー。

ここには人形達と、ドール博士がいた。いつまでも永遠に遊び、誰もが幸せだった。この生活を壊したくは無かった。当然、人形達も。

ただ一人、ジェシカだけは泣いていた。誰を思っ泣いていたのかは、人形達では手の負えない問題だった。花を手向けたのは、せめてもの償いかもしれない。見向き「も」してくれなかったから、見向きもしてくれなかった。

そうして、この館には、不幸な人間、人間は一人もいなくなった。

（後書き）

特にありません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8129o/>

『ドール博士』

2010年11月9日19時09分発行